

本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

# 無碍の一道 第40号

発行:2015年5月10日  
発行者:淨土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺  
〒739-0147 副住職 天野英昭  
東広島市八本松西6丁目10番1号  
☎・FAX 082-428-0160・082-428-1360

## 宗祖親鸞聖人降誕会法座

日 時 5月19日（火） 9:00～15:00頃

朝席 9:00～ 暮席 13:00～

ご講師 渡邊 幸司 師（佐伯区五日市 光乘寺住職）

※ お詫び

3月に送付・配布させていただきました平成27年度天龍寺法座・行事案内の中で、5月19日（火）の講師の欄に当山副住職・天野英昭の名前が記してありました。今年の5月のご講師には渡邊先生に来ていただく約束をしていました事をすっかり私が忘れていた事が原因です。誠に申し訳ございませんでした。また、ご縁がありましたら皆さまと淨土真宗のみ教えを通して、ご縁を深めさせていただければ幸いかと存じます。



## 第44回歎異抄輪読会

日 時 5月21日（木） 19:00～20:30頃

ご講師 松田正典先生（広島大学名誉教授）

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です

## ★天龍寺仏教壯年会 月例会

5月31日（日）19:00～20:30

### 天龍寺仏教婦人会法座並びに演奏会のお礼

先月の4月12日（日）には天龍寺仏教婦人会法座並びに演奏会がありました。大変お忙しい中、多数のご参詣をいただきましたこと、お礼を申し上げます。

昨年もお出で頂いた伊川聰子若坊守は、ご縁があって高校生の時に担任をさせていただきました。彼女が現在の西覚寺副住職・伊川大慶師と東京で出会い、不思議なご縁で三次のお寺に嫁ぎ、ご縁があり、今年もお二人でお出で頂きお話・演奏会をしていただきましたこと、これも大きな仏縁の中でのご縁と感謝しているしだいです。また、ご縁があれば当山にお出で頂ければと思っておりま

す。

この度の法座を実施するにあたり、天龍寺仏教婦人会並びに天龍寺仏教壮年会のみなさまには大変ご尽力をいただきましたこと書面をお借りしましてお礼を申し上げます。

『勝っても南無阿弥陀仏、負けても南無阿弥陀仏、』

『役に立っても南無阿弥陀仏、役に立たなくても南無阿弥陀仏』

グローバル化が進み、競争が激化している今の時代で、日本という国は、資源もなく、豊かな国土もなく、一方で太平洋を隔ててアメリカがあり、北にはロシア、さらにお隣には中国等の大國に挟まれている日本が、生き残っていくためには、残念ながら人材育成がとても重要な事だと思ってきました。日本の戦国時代と同様に、少し国力が落ちれば、近隣の国々からの圧力等が生じ、昨今の例を言えば、尖閣問題等の様な事も類似した事かも知れません。

表現方法に語弊があつてはいけないと思いますが、仮に日本という国が、スカンジナビア半島、アフリカ等という所に国が存在していたり、中東のある国のように資源が豊富で、何年か働けば一生年金が支給してもらえるような国であったならば、ここまで勤勉に働き、世界との競争等に立ち向かっていく必要性も生じなかつたかも知れないと考える事があります。

しかし、今も述べましたように、豊かな資源・国土もなく、大国に挟まれて存在するこの日本では、他国から資源を安く買い入れ、それに付加価値をつけて他国に売り、その差益の所で利益を得、国力を維持していく事しか生き残っていく事が出来ない国であるといつても過言ではないかも知れません。それ故に国民が勤勉に働き、さらには様々な分野で世界をリードしていくかなくてはならないのかもしれません。

高飛車ながら理想としては、競争もなく、全ての人が仲良く、平和に暮らせる国であったならばと思う事もあります。しかし、現実の置かれている状況を鑑み思いますに、やはり日本という国は、世界との競争から離れる事が出来ない宿命を持った国であると思っております。

しかし、競争等の中からは『勝った・負けた、役に立つ・役に立たない等』という比較の世界の迷いから離れる事が出来ず、この事がより先鋭化しますと先生がよく言われます『自尊感情の崩壊』に繋がっていくと考える事があります。しかし、先生がよく申されますが、『勝っても南無阿弥陀仏・負けても南無阿弥陀仏、役に立っても南無阿弥陀仏・役に立たなくても南無阿弥陀仏』この立場に於いて、すなわち人間の価値観でいう所の良い事も、悪い事も、苦しい事も、悲しいことも、全ての人生のご縁を南無阿弥陀仏のご縁として、生死の苦海を渡させていただき、必至滅度のお言葉の如くお浄土に向かって行く人生を歩ませていただく所にも浄土真宗のありがたさがあるのかもしれません。

細川先生は『本当の宗教の立場に立てば、この厳しい現実を力強く生きて行く心の支え、生きて行く力、さらには娑婆の縁が切れたたらさらに大きな世界に生まれさせていただく約束がなくてはならない』と書いておられます。この意味においても有難さを感じるところです。

最後に清沢満之先生の言葉の如く『天命に安んじて、人事を尽くす。』生き方が少しでも出来ればと思いますが、甘えるわけではありませんが、とても自分には出来ない自分に気付く所です。